

## ガラパゴスはどこへ行くのか

ガラパゴス諸島が抱えている問題は、実は世界中の島が抱えている問題でもある。例えば日本の小笠原諸島でも、ヤギの野生化が問題となり駆除が行われているし、外来植物の分布拡大を抑制するための事業が実施されている。しかし、小笠原諸島の面積が約 100 km<sup>2</sup> であるのに対し、ガラパゴス諸島の面積はおよそ 7,600 km<sup>2</sup> もあるのだ。この面積は、東京都 3.5 個分に匹敵する。この面積だからこそ、多様な生物が進化できた一方で、そこに広がった外来生物を根絶することはとても難しくなる。それでも着実に成果を上げているのだからたいしたものである。

ガラパゴス諸島は、間違いなく世界で最も注目度の高い島の一つである。世界中の観光客と研究者が、この諸島を訪れる。エクアドル政府にとっても、この島は外貨を稼ぐことのできる大切な黒字部門であるはずだ。この島の生物多様性保全は、観光を通

じた経済効果に結びつき、また世界中がこの島の生態系の行く末に注目し、評価することになる。そして、この島で成功した保全策は、他の地域でも参考にされることになる。今後も、ガラパゴス諸島から目を離すことができない。

この島の自然に関する情報は、マスコミやインターネットの中で、いくらでも手に入る。しかし、ガラパゴスの魅力は、現地に行き生物の進化を目の当たりにできることにある。地上に降りて人間に近づいてくるダーウィンフィンチや、島ごとに甲羅の形の違うガラパゴスゾウガメを見れば、単なる知識としてではなく、その地で起きた生物進化を実感することができる。我々人類も含め、全ての生物は長い進化の歴史を経て現在にある。ガラパゴス諸島に行けば、その進化を体感できるのだ。そして、ダーウィン以来ガラパゴスがこれほどまでに注目される理由が、よく理解できるはずだ。確かに気軽に行くことのできる場所ではないが、夏休みの旅行計画の選択肢に加えてみてはどうだろう。

## 図書紹介

### Regreening the Bare Hills : Tropical Forest Restoration in the Asia-Pacific Region

(荒廃山地の再緑化：アジア-太平洋地域の熱帯林修復)

David Lamb 著,

Springer 社出版, 2011, €169.95,

ISBN978-90-481-9869-6

著者は、アジア-太平洋地域の荒廃した熱帯林の修復において、同時に生物多様性保全と地域住民の民生向上の両方をいかに達成するかを探求している。このために熱帯森林ランドスケープの修復の成否を決める社会的及び経済的条件を取り込みつつ、生態学的及び造林学的知識を組み合わせることを提案している。荒廃地緑化の新しい手段として、多樹種混交植林に在来樹種の取り込みに特段の注意を払った方法を考察している。こうした方法のケース

スタディーを紹介するとともに、小規模な森林回復の住民への裨益、及び林産物生産と森林保全をいかに両立させるかも提案している。

1, 2章においてこの地域における過去の森林伐採とその後の状態や土地劣化を解説し、3, 4章で荒廃林地の再緑化の各種方法及び林産物、5~7章で天然更新、二次林、単純林、混交林の特徴を述べ、8章で生態学的な林地修復、9, 10章で植林の費用及び再緑化と農民生活の関係、11章でランドスケープを基礎とした再緑化、12章で大規模再緑化のための企業の社会貢献、13章で将来展望を述べている。

本書は森林修復に興味のある自然保護者、自然開発専門家及び研究者のみならず、緑化実務者や同政策立案者にとっても、上記のような新しい造林的手段は荒廃地緑化を推進するに価値あるものであろう。本書はまた緑化に関心のある民間 NGO 団体や学生にとっても価値ある情報を提供するであろう。

(森 徳典)